
カーテン、ゆらり

土功征宗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

カーテン、ゆらり

【Nコード】

N0005B

【作者名】

土功征宗

【あらすじ】

○ストーリーカーする男。ある日彼は決意するが…… 著、（、3、）

y - 前トキしろっ

（前書き）

この作品は投稿するの躊躇っていた程サラッと書いたので暇つぶしにして頂ければ幸いです。一部、暴力的表現あり（軽め）

――――

ぼくを……

ぼくを悩ませるきみは、とても聡明で美しい。

一日一日の時間を惜しまず、きみを見続けることこそが、ぼくの
快樂への懸け橋になる。

これは、清く正しい事なんかじゃない。

きみの存在を草むらの中から見つけたとき、ぼくは沸き上がるド
キドキを押さえる事が出来ず、きみの後を付けた。

そう、その時から三年。三年も経ったんだ。

その三年間の成果は計り知れない。

まずは、きみの下着。それと声の採取は、外壁用の盗聴で録音し
た。けど不本意に張りつけた為、何故か壊れてしまい一度だけ。部
屋への侵入はしない。それは、ぼくのルールだ。

早朝、ゴミの山からおぞましいカラスの群れを追い払った末に、
やっと手にした髪の毛と何を拭いたか分からない丸められたティッ
シュ。これはとても不思議な薫がする。それから、割り箸。これは
恥ずかしいが、何度も舐めたよ。生理用品は、ぼくの好みじゃない
から、コレクションにはない。

あつ、そうだ！ 先週、コンドームが立て続けに見つけた時は、
腹立たしさと興奮を覚えたよ……

その他、あげれば限りがない。でも、一番は写真。笑顔の写真だ。
前髪を揃えてカットし、長く伸びた髪をむらなく栗色に染めてい
る。ふくよかな唇に、世界の女性が憧れるアーモンドアイを細めて

笑う、そんな写真。

この写真は、何度も摩擦する右手の原動力にもなったんだよ……
おかげで、想像力が豊かになった。

あつ、そう言えば、先週きみの部屋のカーテンが、水色から赤いカーテンに変わっていたね。いくら紅葉の秋とはいえ、きみの部屋の赤いカーテンは刺激が強すぎるんじゃない。

赤は、人を興奮させる効果があるらしいし……なんとなく想像がつくのが、きみの好いところなんだよね！

もう……

もう、たまらない。

好きだ！

でも……

でも、もうきみから卒業しなくちゃならないんだ。

こんなぼくもきみを断ち切る為に、彼女を見つけたんだ。ぼくは彼女と結婚して、これからの人生をきみを忘れるために生きてゆく。その為に彼女を犠牲にするんだ！

それでもしくは、ぼくはきみを殺しかねない。
こうして、夜な夜なきみのアパートをカーテン越しに覗きにくるのも、今日で最後にするよ！

さようなら

一一一一一一一一

と書いた手紙を片手に、ぼくは今日の夜を最後に、きみの前から消える覚悟で立っている。

二階建のアパート。その一階部分の一番端。

アパートは管理人が、ヘタに一階部分を隠す囲いを立ててあるの
で隠れやすく、さらに人通りが少ないため、覗きが容易い。さらに
ベストスポットがある。

時には勇気を出して、きみの部屋の窓越しまで行くと、中から物
音や会話が聞こえてくることもある。

そんな時は、時間を忘れて聞き入っていたこともあったな。ラッ
キーだったよ。

……フフフッ

「さて、手紙をポストに入れて立ち去るかな」

ぼくは、右手に持つ出刃包丁を左手に持ちかえて、ケツポケット
に入れておいた手紙をポストに入れて、後ろを振り向いたんだ。

ゴツッ！

ぼ、ぼくの頭に鈍い音が響いた。
一瞬だったが分かる。

まさか、きみがバットを振りかざすなんて……

*

「まったくよ、ふざけんなよ。オマエ等だけが見てたと思うなよ！
こっちは、何度も何度もオマエ等みたいなゲスにつきまとわれてんだよ……」

ああ、頭が朦朧とする

きみは、何かブツブツ言っている

あっカーテン。上の部分に水色が見える

ん！？ ぼ、ぼくの隣に裸の男？ 血だらけ

ああ、頭が……

「そんなにあたしとヤリてえのか！ヤリてえなら、ヤラせてやるよ」
き、きみは、何をやってるんだ……ぼくの上で揺れて……

あれ、床がガサガサ音がして、ツルツルつかめない……

ああ、ビニールシートか……

————ッザク

「うっ！」

何か、ぼ、ぼくが変だ

————ッザク

「うっ」

何か……食道から生暖かいものが……く、口の中に流れ込んでくる……

「ああ、いい！この血の匂い。最いいっ高！この血飛沫を浴びる快楽は、セックスを上回るのよ」

————ゴリッ、パキ！

ああ、き、きみは……ぼくに全体重を掛けて、刃物を突き刺しているのか

「あゝあ。刃が折れちゃった。先週の男刺しちゃってボロボロだったし」

———メリメリッ

きみの顔が、ち、近い……

カリッ、カリカリ、カリッ

ど、どうやら……あ、頭の皮を剥いで……いるようだ……し、神
経質な目が……いい……いい

「えっ！？ま、まだ生きてる！変態はしぶといんだ」

もう……ぼくの……い、意識は遠い……何も感じない……

でも、ぼくは……その中で分かったことは……

分かったことは……

E N D

（後書き）

○ 本作品『カーテン、ゆらり』を最後まで読んで頂き有難うございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0005b/>

カーテン、ゆらり

2010年10月11日23時11分発行